

第2次門真市行財政改革推進計画（案）への懇話会意見一覧

- ・（保険料、市税について）単に徴収するというだけでなく、生活再建の相談といったものもする必要があるのではないかな。
- ・ 市民は、行政がしてくれることはタダ、という認識を高く持っている。そのため、行政サービスにどれだけの費用がかかっているのかをもっとアピールしていく必要があるのではないかな。サービスはタダではない、ということをおアピールすることで効果が出てくるのではないかな。
- ・ 財政再建は、官民一体となつてする必要がある。特に、事業者に対していかに協力を求めるかが重要となつてくるのではないかな。
- ・ 市民にもいろいろな問題がでてきており、市民の教育は必要である。ただ、自分たちの生活を良くしてくれるのが行政であるという考えを昔からもっている人もいる。しかし、年々しわ寄せが市民のところへくる。保険料を払わない市民もいる一方で、まじめな市民もいる。
 広報も読んでいない人が多い。結果として、人々の話の中で、粗大ごみ収集の有料化といった情報だけが回ってしまう状況がある。市民が頑張つてほしい反面、行政ももう少し工夫が必要ではないかな。
- ・ 街中にある公園で、機能していない不要な公園はあると思う。見直しの対象にあげていってもいいのではないかな。
- ・ 計画においては、財政再建団体へと転落させないための数字を出さざるを得ない面があるだろうが、それを具体的に実行できるかという課題はある。行政評価を導入する中で、なぜ市がその仕事をしているのか、他の方法がないのか、その事業を廃止したらどうなるのか等を考えていく必要がある。市民に負担をしてもらい、辛抱してもらつた中では、情報公開、市民に説明することが必要となつてくる。それにより職員は市民に説明する責任を持たなければならず、そのことが一人一人の職員の意識改革につながる。それがなければ、この数字は担保できない。見直しの趣旨を説明できるような行政評価が必要である。
 また一方で、このトンネルを抜ければ、まちづくりの希望が先にあるということも示していかなければならない。

- 平成 20 年度から平成 22 年度の期間が重要である。しぼるものはしぼり、将来に対する夢や希望の計画、増収というものを考え、その具体策を検討しなければならない。

定年退職者は、退職したら終わりというのではなく、これまでの知識やノウハウを生かして、何か市のために協力するということがあってもいいのではないか。また、そうした人たちの能力を役所が把握し、それをどのように活用していくかを考える必要があるのではないか。
- 大学があるところは潤うという例が多いので、土地売却の一方で、そうした施策も考えていく必要があるのではないか。
- 役所の体質としては先送りにする面があるが、先送りすれば結果としてマイナスのお釣りが返ってくるのであるから、その辺の職員の意識改革をする必要があるだろう。
- 職種変更といったものを、労使で協議されてもいいのではないか。
- (計画では)目標を達成するための手順もきっちりつけておかなければならない。そうでなければ、数字だけをあげても意味のないものになってしまう。
- 市民の中には、まだ門真市の職員の数が多いのではないかといった思いを抱いている人もおり、市民の理解を得るためにも、門真市の職員数は周辺自治体と比べてどうなのか、といったことが必ず問われてくると思う。

一般会計から国保会計へと繰り出さなければならぬのかもしれない。その財源確保のためにシーリングをかけていっていると思うが、もうギリギリのところまできているのではないか。この形でいくと、事務事業評価との整合性がとれなくなってしまうのではないか。その辺りについて工夫が必要ではないか。
- 計画には、業務委託がずいぶんある。委託すると、業者に対する管理体制が必要となってくるが、頭でっかちの管理体制となってしまうケースがみうけられる。管理体制の簡素化が伴わないと、財政的に効果が乏しいものになってしまうのではないか。そうならないために、ポイントを押さえた管理をする必要があるのではないか。
- 市税収納率については、平成 19 年度の実績によって、目標値の設定もまた変わってくるのだろう。

- ・ ゴミ関係の委託に関して、委託によりコストが削減されるという一方で、これまで行われてきたサービスが失われてしまわないかと考えるところがあり、そうしたことを踏まえた上での議論が必要ではないか。
- ・ ゴミ関係の委託の方法として、現在地域が4分割されていると思うが、一括で入札させるのか、あるいはエリアごとに入札させるのか、といったことを検討してみてもどうか。
- ・ ロッジかどまの見直しについては、合意形成ができているのか。
早く進めてほしい。つくる時に合意形成してくれれば(もっと近いところにつくるなど)、良かったのでは。
- ・ 特別職、一般職給料の減額とあるが、市役所で働くことに意欲は持たれているか。あまりそういうところに目を向けないほうがよいとの思いもあるが、一方で一般の人々の目もある。そうした中で奉仕精神をもって働くことができるか。
- ・ (特別職、一般職給料の減額に関しては)そうした状況をよく理解してもらいながら、この何年間か我慢して、乗り切っていかなければならないだろう。
先ほどの図書館の話が出たが、図書館が今各地町おこしのキーとなっている面がある。公営の図書館は評判があまり良くない。三重県桑名市ではPFIを活用し、民間が運営することで、開館時間など弾力性をもって行っている。その意味で、指定管理者制度などには期待がある。
- ・ 単年度の効果額の目標数値を出すといった考えはあるか。毎年の状況等がより分かりやすくなるような工夫が必要ではないか。